

令和3年度事業の 最終報告について

令和3年度事業の趣旨及びスケジュール

これまでの取組

医療機関で活用できる、より実践的なモデルや手順書といったツールが必要ではないか

R1年度: アンケート・好事例施設調査

- 100床以上の医療機関に対する実態調査
- 好事例施設の取り組み状況を調査
⇒現状の把握と課題の抽出

R2年度: スタートアップツールの作成

- ポリファーマシー対策を行う実践的なポイント
- 業務手順書のモックアップ 等
⇒R1年度の課題を解決するツールを作成

R3年度: モデル医療機関での実運用調査

- R2年度に作成したツールを医療機関で運用し、実用性と課題を確認
- 実施機関は公募により数機関を採択
- モデル医療機関での取組結果の学会発表などを通じて、ツールの周知も図る

病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方

<スケジュール>

	R2年度	R3年度	R4年度
検討会	第13回	第14回 中間報告	第15回 最終報告
医療機関等での効果検証		ツールの運用を通じた効果検証・課題確認	地域での取組みにおける課題抽出等

採択医療機関

① 藤田医科大学病院（愛知県豊明市）

【ポリファーマシー対策を新たに導入する施設】

② 国立がん研究センター中央病院（東京都中央区）

【ポリファーマシー対策を新たに導入する施設】

③ 三豊総合病院（香川県観音寺市）

【ポリファーマシー対策をすでに実施している施設】

最終報告の進め方

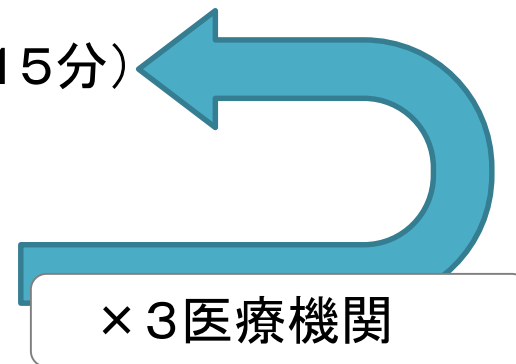
- モデル医療機関から取組状況の最終報告(約15分)



質疑応答(10分)



- 3医療機関全体を通じた意見交換(30分)



- 取組みを通して見えた業務手順書等の実用性と課題の確認
- 今後業務手順書等として整備すべき内容等の確認